

平成23年7月16日  
原子力安全対策課  
( 2 3 - 1 6 )  
<10時記者発表>

## 大飯発電所1号機の原子炉手動停止について (C-蓄圧タンク圧力の低下)

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

### 記

大飯1号機は、第24回定期検査の調整運転中のところ、7月15日22時46分に「C-蓄圧タンク<sup>※1</sup>圧力高/低」の警報が発信した。

C-蓄圧タンクの圧力計を確認したところ、圧力が通常4.60MPaのところ、3.65MPaに低下していることが確認された。このため、23時20分に、窒素供給ラインから当該タンクへの窒素補給を開始し、23時45分に圧力は4.09MPaに回復した。

その後、本日0時38分に窒素補給を終了し、当該タンクの圧力の監視を強化していたが、圧力は約4.08MPaで安定して推移した。また、当該タンクおよびタンク周りの弁や配管の外観点検を行った結果、異常は認められなかった。

今後、本日13時頃から出力降下し、20時頃に発電停止、21時頃に原子炉を停止し、圧力低下の原因を調査することとした。

なお、圧力低下確認後の15日23時に蓄圧タンクは保安規定に定める運転上の制限値<sup>※2</sup>を満足していないと判断した。また、圧力回復後の15日23時45分、運転上の制限を満足した状態に復帰したと判断した。

この事象による環境への放射能の影響はない。

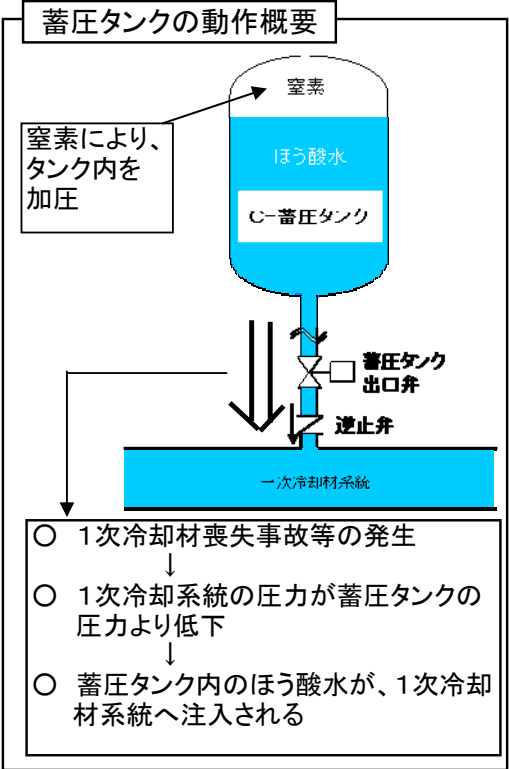
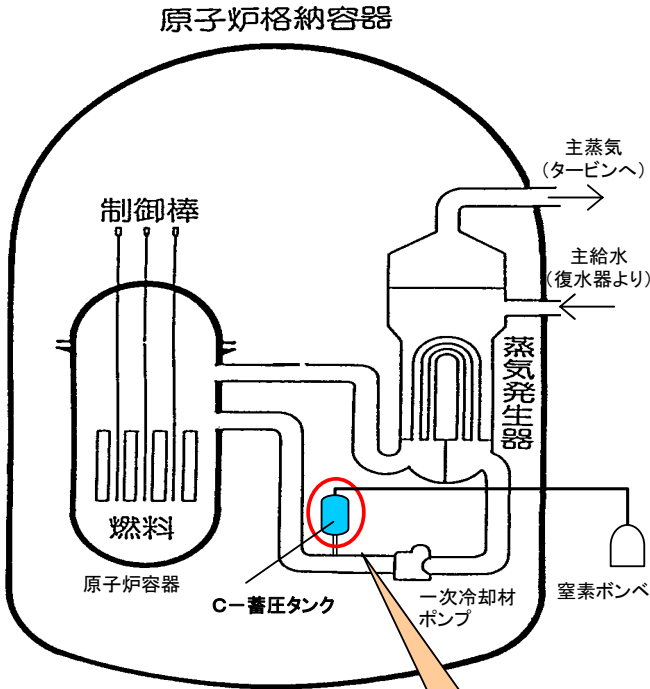
※1 ほう酸水を蓄えているタンクで、4系統ある1次冷却系統にそれぞれ1基ずつ設置されている。原子炉冷却材喪失事故時など、1次冷却系統の圧力が窒素で加圧されている蓄圧タンクの圧力よりも低下した際に、ほう酸水が系統に注入される。

※2 蓄圧タンクの圧力の制限値として、4.04MPa以上であることが定められている。

|                                   |
|-----------------------------------|
| 問い合わせ先<br>内線 2354・直通 0776(20)0314 |
|-----------------------------------|

# 大飯発電所1号機の原子炉手動停止について

概略系統図



**【蓄圧タンクの仕様】**

寸法：高さ約7m × 内径約3m  
 容量：約38m<sup>3</sup> (最大)  
           約28m<sup>3</sup> (運転中のほう酸水量)  
 ほう素濃度：2800 ppm以上  
 圧力：約4.2~4.7MPa(運転中)  
 材質：低合金鋼

